

高2の夏を征する者、なりたい自分への1歩を踏み出す！

7月13日(火) 答案返却初日の午後、学年集会がありました。1学期の総括を各クラスの学級委員長から発表があり、その後阿原先生からこの夏の過ごし方について、紺谷先生から、高校生活3年間の授業は、もう折り返し地点に来ているとの話がありました。

今号では、この集会で発表した1組・3組～5組の学級委員の反省・抱負を掲載します。2組・6組～8組は9月1日号で掲載予定です。



2年1組(特進クラス) 神宮 孝祐君

1組は、全体的に学習への意欲は高く、生徒間のコミュニケーションはよくとれています。しかし基本的な生活習慣に対する意欲は低いです。良い面としては、先生への質問をする人が多いことや、大学進学を考えて学習に取り組んでいる人が多いことです。生活の面では挨拶の声が小さい、遅刻が多い、提出物の提出率が悪い面があります。クラスの目標である独立、協調、共感の英語の頭文字を取った「ICE」の面では、みんなが協調して、クラスのニュース発表の時に共感している一方で他人任せの点があり小テストの際に誰かが言わないと準備しません。この点を改善するためには、委員長、副委員長が先頭に立ち、クラスでの声かけや掲示での連絡網の徹底、自分自身に甘えがでない雰囲気を作り、クラス全体が少しでも意識高くより良い方向へ歩んでいけるようにリーダーとして努めていきたいと考えています。

2年3組(選抜クラス) 平吹 星河君

私たちのクラスでは、エレベーターや廊下などでの、挨拶をする場面ではしっかりできていたと思います。ただ、時間厳守という点で、朝読書や、授業に間に合わないなど、直さなければならない点がありました。進路グランドデザインについては、検定面では、英検と数検で二級合格者が出てきたりと、よい結果に結びついています。しかし国語力テストや数学月例テストなどは、家庭学習ができていない人が多く、意識の低さが現れています。クラス内では、サーキュレーターやドアの故障などがあり自覚の足りない点がありました。二学期は落ち着いて生活するとともに夏休みを利用してオープンキャンパスに行くなど、進路についても考え、学習面では小テストなどの基礎から全力で取り組みたいと思います。

2年4組(理系大進クラス) 浜野 翔大君

青学年生徒の心得の1つである、上履きのはき方についてはできていたと思います。挨拶の励行や時間厳守の点では改善しなければならない点があります。進路グランドデザインについては、朝読書に取り組むことや検定受験はよくできていたと思います。しかし、スベコン、数学月例、国語力テストを大切にできていない人も多く意識高く、二学期は改善していきたいです。授業中や皿の椅子は、一学期はまだ7時間授業に慣れていないせいか、授業中の居眠りがあり、学級委員を中心に注意していきたいです。良い点では帰りの皿に明日の予定、提出

物、テストなどの連絡を共有することができていたので、二学期も続けていきたいです。

2年5組(大進クラス) 笠松 通君

青年年の心得の一つ挨拶は積極的にできていたと思います。また、上履きの踵を踏まない様注意する点は、体育の授業後等守られていない時があるので注意していきたいです。時間厳守に関しては朝 8 時 15 分までに登校、着席するという 5 組独自のルールを守れず来ない人が一定数いたので、二学期からは時間にルーズにならないよう努めていきます。進路グラウンドデザインについては 5 組は意識し行動できている人が少ないです。朝読書の時間を大切にしている生徒もいます。しかし小テストなどでは高い意識を持って取り組んでいる仲間もいます。5 組では大きなクラス目標がなく週ごとのクラス目標でした。そのため目標についての意思付けが出来ていなかった様に感じています。クラス全体で意識できるように 班 などで目標を口で称え達成し続けられるようにしていきたいです。普段の授業に関しては、休み時間から授業への切り替えが遅く、始まってからも落ち着くまでに時間がかかっていました。班 も同様で落ち着くまでに時間がかかっていました。二学期以降はクラス全体で声を掛け合って時間を大切にしたいです。

8月 世界の偉人たち



新渡戸 稲造 (にとべいなぞう) (1862~1933) 農政学者、教育者、思想家

札幌農学校卒。アメリカ留学ののち、京大教授、一高校長に就任。キリスト教信者として国際親善に尽くし国際連盟書記副次長もつとめた。日本の武士道精神を紹介する本「Bushido」を刊行、この本は非常に評判となり日本文化の海外への紹介に大いに貢献する。東京女子大初代学長などを歴任。カナダで客死。五千円札の顔として有名。

8月3日
生まれ



吉田 松陰 (よしだしょういん) (1830~1859) 江戸時代末期の志士

10歳で明倫館に出勤、11歳のとき藩主敬親に兵書を進講し秀才振りを示した。18歳で山鹿流軍学の免許皆伝を受け、19歳で独立の節籠となる。ペリー浦賀再来のとき海外密航を企て失敗し、萩の野山獄に入れられた。出獄後王木文之進の塾を継ぎ、安政四年松下村塾を開いて、尊王攘夷運動の指導者を育成した。安政の大獄で刑死。

8月4日
生まれ



大久保 利通 (おおくぼとしみち) (1830~1878) 明治の元勳

幕末、薩摩を率いて維新を達成した維新三傑の一人。彼は明治国家の中央集権化に務めた異才の政治家である。政府においては大久保独裁政権を築き上げ、強力な権力構造の生成に努め、同時に天皇の威権を強化した。政敵江藤新平を倒し、西南戦争を起した西郷隆盛も倒した。明治11年、刺客に襲われ命を失う。

8月10日
生まれ



高杉 晋作 (たかすぎしんさく) (1839~1867) 江戸幕末の志士

19歳のとき、松下村塾に学んで久坂玄瑞とともに松前門下の双壁と称せられた。のち江戸に出て昌平黉に学ぶ。外国船の下関砲撃に際し、奇兵隊を創設。元治元年の四国艦隊下関砲撃事件に際しては、藩の正使として和議を結び、その後、藩論を統一して討幕運動に結集させ、第2次幕府戦争では大いに幕府軍を破ったが、まもなく病没。

8月20日
生まれ

クイズ: 保善高等学校の初代校長は誰ですか ①新渡戸稲造 ②吉田松陰 ③大久保利通 ④高杉晋作

答え・編集後記右下



今月の学び場 「入試に出るかも」時事キーワード

これからの入試では、時事問題からの出題が増えそうです。日々新聞に掲載されるニュースを通して学習しましょう。この夏から習慣付けるようにしましょう。

最近のニュースから予想される出る順ランキング

1位：縄文遺跡群・世界遺産

2位：G7サミット

3位：プラ循環促進法

4位：温暖化対策推進法

5位：長崎港 450 周年

が有力です。

例えば1位：縄文遺跡群・世界遺産は、世界文化遺産に登録される見通しになった北海道・北東北の縄文遺跡群。青森県の三内丸山遺跡、東北地方の他の世界遺産や奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表も要チェックです。名称と特徴は答えられるようにしておくこと受験対策や一般教養としての手助けになるでしょう。

8月のSDGs



勉強するのに年齢は関係ない。でも学んだことを生かせる時（チャンス）は限られている。

私達は誰もが高い教育を受ける環境にいる。保護生はその環境に気づいていない時がある・・・。

母国語で何もかも学べる環境にこの夏気づき学ぶことを大切にもらいたい。

沖縄県うるま市(嘉手納基地から約10km)に「昆布」という村があります。昆布の採れない沖縄になぜ「昆布」という地名があるのでしょうか。それは、江戸時代の北前船によって琉球の「砂糖」と北海道の「昆布」が取引されたことに由来します。当時昆布は大変貴重で、おめでたいものとされており、国王の下賜品としても重宝されていました。

沖縄では昆布をよく食べます。出汁(ダシ)というより食べるのです。沖縄が長寿県である理由はそこにもあるかもしれません。ちなみに、沖縄では昆布のことを「クープ」と言います。

さて、薩摩藩は朝鮮出兵や関ヶ原の戦いなどで逼迫(ひつぱり)した財政再建のため、琉球に侵攻しましたが、その後も財政は好転しなかったため琉球王国の進貢(朝貢)貿易の経営に参入し、中国から生糸を買い入れて大阪市場で売りさばき、その利益を財政補填(おぎな)に当てました。当時、中国からの購入物は、国内では倍以上の値段で販売されていたことがその背景にはあります。

一方、琉球王国は薩摩の侵攻後、中国と薩摩藩への両属体制を取らざるをえず、そのために厳しい租税制度が敷かれ、一般農民は貧苦に喘(あ)いでいました。琉球王府は年貢以外に「砂糖・ウコン」などの専売でその財政をまかっていたのですが、薩摩藩からの借入銀(貿易のための資金)が毎年累積したため、島津氏や薩摩藩御用商人からの借財がさらに増え、赤字が増えました。進貢貿易の利益は長続きしなかったのです。18世紀末になると、薩摩藩は「昆布」にも目をつけ、それを手に入れて中国との交易品にしました。

幕末の薩摩藩の潤沢な資金による活躍の裏側には、こうした奄美龍島や琉球王国からの搾取があったのです。

また、島津氏の侵攻によって琉球王国は多くの貴重な文化財産を失いましたが、本土の文化を取り入れて新たな琉球文化を生み出しました。それらは、「組踊り」や染物の「紅型(ベニガシ)技法」、陶芸など牧学に眼(い)ド)がありません。さらに、精糖技術やサツマイモの栽培法を中国から学び、特にサツマイモは青木昆陽(薩摩藩)によって全国に広められました。武道の空手もこの頃体系化されたそうです。琉球(沖縄)のたくましさを感じますね。(次号に続く)

※参考文献:『琉球・沖縄史』(沖縄歴史教育委員会編)、『美(ミ)の島』(沖縄エバンジェリコ)

編集後記

一番お見舞い申し上げます。コロナ禍での2回目の夏を迎えます。1学期は、体育祭・鎌倉散策など生徒達が楽しみにしていた行事が中止になり学年通信でもお伝えできませんでした。元気な2学期をスタートできるようどうかお体ご自愛下さい。(保護者の皆様から募る俳句・短歌・川柳については9月号から募集します。)